



スノーシューハイク みどころ MAP

1月～3月まで、那須平成の森はスノーシューを楽しめます（※実施時期は積雪状況により変わります）。特に「ガイドウォーク」に参加すると、様々な発見や学びがあるのでおすすめです。今回は特別に、そのみどころを、インタープリターならではの視点でご紹介します！

← 駒止の滝駐車場
（観瀑台は冬季閉鎖）



ツキノクグマ

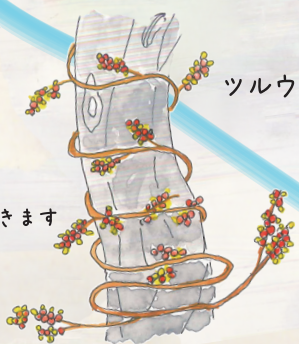
ツグミ

★群れていることが多いです



実を求めて
鳥が集まっています

ツルウメモドキ



目印用に**ピンク**のテープを貼っています

ガブルートです（自由散策も可能です）

雪のテーブルを作って、
お茶でひといき！



様々な冬芽たち



ミズメ

オオカメノキ（花）

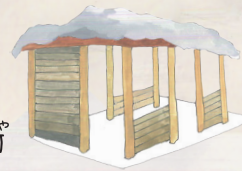


気温で形が変わる
雪の結晶

キツツキの穴



あずまや
雪に埋まる四阿
で休み



フクロウ

ブナにつくヤドリギの
実を狙う **ヒレンジャク**



巨大ブナ
（通称：ブナ太郎）



目印となる4つの
生き物看板は
（ホンドギツネ、フクロウ、ツルウメモドキ、アカネズミ）



那須平成の森には冬毛（白色）と
夏毛（茶色）のまめのノウサギが
いるようです



あしあと



周辺のくぼ地は天然の滑り台！
ソリ遊びにもってこいです
※スノーシューでなくても遊べます♪

雪の中で葉を丸め、
冬越しするシャクナゲ



銀世界に映える
ウラジロモミたち



場所によって
葉の形が違う??

ニホンジカの
角とぎあと



アカネズミ

スタッフか“土俵”と
呼んでいる四阿



フィールドセンター

スタート&ゴール

那須平成の森 秋のできごと（9月～10月）

9月

自然体験学習プログラム 「大人の休息タイム」



他に人のいない森に6名だけで入り、10分程度のお散歩とコーヒーとともに沢のとなりでぼーと過ごす時間。そんな中で、森でゆっくり過ごす気持ち良さを感じてほしいと思い、実施しました。

より自然を感じられるように、踏み跡のない土の上を歩いたり、草の匂いや音に耳を立てたり、そして最後は土の上に寝転ぶなど思い思いに過ごしました。

終了後は「こんな時間必要」「贅沢」「もっと時間がほしい」など、みなさん優しいお顔でお話されていました。（小西）

※新型コロナウイルス感染症拡大のため、6月から9月に延期しました。

10月

特別ガイドウォーク 「キノコの森歩き」

不思議で、美味しそうで、魅力たっぷりのキノコ。実は、枯れ木や落ち葉をお掃除したり、木の成長を助けたりする、重要な森の“調整役”なのです。今回は、そんなキノコの役割に注目して、歩きながら森の仕組みやつながりを考えるようなガイドウォークを行いました。

那須平成の森で、キノコに特化したプログラムは初めてでしたが、皆さんの集中力が強く、美しいモエギタケや甘い香りのするブナハリタケなど、たくさんのキノコとの出会い、そして発見がありました。今回は参加者の応募が多くありましたので、また季節を変えて実施したいです。（丸子）



モエギタケ

～フィールドセンターの展示をいくつかご紹介します！～

第4回目 「お月見」展示

お月見は田畑で採れる食物の収穫と密接な関係があります。収穫物が得られた喜びを月（お陰様）を愛でながら神に感謝する、古くから伝わる日本の風習です。

お月見には旧暦8月15日の「十五夜（芋名月）」、旧暦9月13日の「十三夜（栗名月・豆名月）」、旧暦10月10日の「十日夜（とおかんや）」（稲の収穫を祝う）があります。（若林）



▲10月から11月はお月見の展示
（団子は和紙で作られたものです）



その⑦「サンショウウオ調査」に注目！

今年の5月よりサンショウウオの独自調査を開始しました。綺麗な水が必要とするサンショウウオの

仲間は、この森の豊かさと環境の良さを示す指標になる生き物です。今年はハコネサンショウウオの幼生を対象として、月2日程実施しました。ベストシーズンは6月で、1日に12～13個体を確認し、少数ですが11月にも発見できています。

調査の結果は我々のデータとしてだけでなく、展示にも活用する為、生息の有無だけでなく、今後は生活史や環境など幅広い視点で彼らのデータを収集していきます。（檜山）



▲調査の様子



▲ハコネサンショウウオの幼体